

30amM-009

イルソグラジンマレイン酸塩含有口内炎治療用スプレー剤の開発

○今村 綾乃¹, 河野 弥生¹, 佐藤 光利², 花輪 剛久¹(¹東京理大薬, ²東邦大薬)

【目的】がん化学療法または放射線療法により誘発される口内炎は、患者に苦痛を与え摂食障害や睡眠障害等の要因となり、QOL を著しく低下させる。治療には含嗽液や口腔用軟膏等が用いられるが、含嗽液は吐出する必要がある、軟膏は塗布時の指の挿入に伴い嘔気が誘発されるなど、使用が制限されている。本研究では、利便性を考慮した「患者に優しい製剤」として粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤である、イルソグラジンマレイン酸(IM)を含有する口腔用スプレー剤の調製・評価を行った。

【方法】主薬である IM は水に難溶解性であるため、種々のシクロデキストリン(CD)による可溶化を検討した。また、スプレー基剤として食品添加物であるガタイガム(5, 10w/v%,GG)を使用し、流動性、付着性などの物性評価および実際にスプレー容器に充填した際の噴霧性評価を行った。

【結果・考察】これまで種々の CD で IM の溶解性を検討した結果、HP- β -CD が高い可溶化能を示した。基剤の物性評価より、GG 水溶液は院内製剤のスプレー基剤として汎用されている CMC-Na 水溶液と同等以上の付着性を示した。今後ハムスターの口内炎モデルに対する IM の効果を確認し、口内炎治療薬としての適応の可能性を検討する予定である。